

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成25年 9月 2日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	環境共生課
-----	-----------	------	-------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成23年4月1日 ~ 平成28年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200-6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の収受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約17.8ha (うち6haを利用に供用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台)</p> <p><主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど</p> <p><開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 入園料/一般700円(高校生以下無料)、団体600円(20名以上)、年間入園券2,800円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)/映像ホール1,400～1,800円、アトリエ実習室500～600円など 撮影料/業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,800円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,600円</p>		
職員体制	常勤職員: 12人 非常勤職員: 38人 合計: 50人		

「職員数は、平成25年4月1現在」

2 収支の状況

単位:千円

		23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(予算)
収入	県支出金	285,652	330,190	332,451
	使用料・手数料	73,088	66,092	73,091
	その他	67,109	18,599	17,075
	収入計 (a)	425,849	414,881	422,617
支出	事業費	216,679	226,432	213,456
	管理運営費	3,803	3,642	3,884
	人件費	204,008	186,852	211,980
	その他			
	支出計 (b)	424,490	416,926	429,320

3 利用状況

	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	183,913	171,400	180,000
②利用者意見等の反映	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口や各展示会場にアンケートを置いているほか、イベント・企画展でのアンケート、マスコミなどとの意見交換等により、来園者やイベント参加者の意見の把握に努めている。 ・アンケート結果やご意見に対して、連絡会議や事務連絡メール等を通じて職員全員に情報共有を行うとともに、HP、リーフレット、案内板等に反映するよう努めている。 		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度は、牧野富太郎生誕150年を迎え、「五台山花絵巻」を皮切りに記念展の開催や生誕日の無料開園等、様々なイベントを企画し好評を博した。また、博士の植物図を図案化した記念切手の作成も行っている。 ・夏以降も「夜の植物園」や「五台山 観月会」等を開催し、年間入園者数は目標の18万人には届かなかったものの171,400人と多数の方に来園いただけている。 		

4 平成24年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われていると認められる。 ・南海地震対策として、早期にBCPが策定されるよう望む。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・企画広報事業では、ニュースレターの発行や各種催し案内の県内外への配布に加え、フェイスブックやホームページを活用することで、新鮮な情報の提供に努めており、効果的な広報に工夫が見られる。 ・教育普及事業では、中学校教員の受け入れにより、学校教育の視点から植物園の新たな教育プログラムを作成したほか、校長会、理科部会へのPRなど、子どもへの教育普及活動に力を入れている。 ・オオオニバスの育成の成功を、子どもを巻き込むイベントにつなげ、園を挙げての企画の充実に努めている。 ・生誕150年記念展では、牧野文庫の未整理であった標本試料を整理し、展示活用したほか、牧野文庫の資料600点のデジタル化を行い、資料の活用が図られた(図書室年間利用754名)。 ・来園者に楽しんでいただける常設のクイズの設置や、常設展へのアンケート設置、牧野博士のスケッチの活用などさらに工夫をしてはどうか。

<p>③事業実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園地管理では、イベントに合わせた展示方法の工夫を行い、博士ゆかりの植物や高知県の野生植物の植栽を充実させることにより、施設の独自色を打ち出している。また、栽培管理においては、園地の植栽や研究・教育普及活動との効果的な連動を図るため、定期的な内部協議を行い、組織内の連携が図られている。 ・牧野博士の業績顕彰の一つである基礎研究分野では、国内外で採集された標本について分類学研究の成果として、学術発表や学会発表を行った（4論文、3演題）。標本数は1年間で2万2,325点増加し、総数24万3,767点と充実を見ている（標本室年間利用392名）。 ・薬用植物研究では、ホソバオケラの増殖栽培のほか試験的な加工調整、販売により、品質の確認を行った。また、オウレンやシャクヤクの成分分析や試験栽培、ミャンマー産植物の代替生薬に関する調査を行うなど、中山間地域における農業振興に向けた研究調査を実施している。 ・研究成果を県内での利益の確保につなげるため、知財戦略として位置づける検討を行ってはどうか。
<p>④収支の状況</p>	<p>・利用料金収入は66,092千円と対前年度比90.4%となり、収支は△204.5千円となった。外部委託の導入、電気料のデマンド制御システムの導入など、業務の効率化や経費の節減に努めているが、今後の管理費の増加への対応が課題になると思われる。</p>
<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「五台山花絵巻」など年間を通じた積極的なイベント展開が図られ、入園者の状況は高い水準ではあるが、目標には達しなかった。収支面への影響も考慮し、入園者の確保が図られるよう、努力を期待する。 ・事業全般について、県の施策との役割分担を意識した推進を望む。 ・地域の関連団体との連携は推進しているものの、活動の波及やプロモーションへの具体的な反映の点等において、県も含めた協働のあり方に更なる工夫を求める。

【評価の目安】 A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの